おかしおかし、あるところに、花の 大すきなおじいさんが いました。

いえの にわに、いつも たくさんの 花を うえています。

きいあさはやく、おじいさんは にわを きれいに そうじして、木にも 草にも、一本のこらず ていねいに 水を やります。

あたらしく さきかけの 花を 見つけると、おじいさんは よろこーんで、その花に おじぎをしたり、おさけを とえたりしました。

雨が ひどくふったり、かぜが はげしくふくときなどは、おじいさんは よなかでも おきだして、にわへ 出て 花を みまわります。

もし、おれそうな えだが あると、竹で ささえを してやります。

しぼんだ花や、ちってしまった花を 見ると、

「かわいそうになあ」

と、ためいきを ついて、なみだを こぼします。

そうして、ちった花びらを はきあつめて、一つ一つ 水で きれいに あらいます。

それから カメの 中に 入れて、おきつりを してから 土に うめてやります。

花の おそうしきです。

これほどまでに、花を かわいがって いるのでした。

ある日のこと、その おじいさんの いえの そばを、らんぼうな男たちが とおりかかりました。

「おお、こんが 花くるいの じいさんの うちだな。はいってみよう」

らんぼうものたちは、おじいさんいえの とびらを ドンドンと たたきました。

「おい、おれたちにも、にわの ながを 見せろ一！」

おじいさんは しかたなしに、らんぼうこゃものを 入れてやりました。

にわには ちょうど、ボタンの 花が いっぱい さいていました。

でも、らんぼうものは 花も 見ないで、なかまたちと いっしょに さけを のみはじめました。

そのうちに、よっぱらった らんぼうものは、そばにあった 花の えだを おるのをしました。

おじいさんは ビックリして、

「あっ、やめてください。花が かわいそうです」

「ええい、うるさい！ こうしてくれるわ一！」

と、いって、花を みんな へしおってしまうと、わらいながら にわを 出ていきました。

おじいさんは、メチャクチャにされた 花を 見て、ポロポロと なみだを こぼしました。

「ああ、かわいそうに、かわいそうに」

すると、そのとき、

「もし、もし」

と、いう、やさしいこえが しました。

おじいさんが ふりおいて 見ますと、うつくしい花の せんにょが 立っていました。